

<正解>

サンプル問題 1	サンプル問題 2	サンプル問題 3	サンプル問題 4	サンプル問題 5
1	3	1	2	2

配点： 1問5点（100点満点）

ファイナンシャル・プランナーには、お金・資産に関わるあらゆる角度からの知識と技能が必要になります。これを踏まえて、日本FP協会が実施する3級実技試験（資産設計提案業務）は、包括的な資産設計の立案・実行援助という前提のもと、「ライフプランニングと資金計画」「リスク管理」「金融資産運用」「タックスプランニング」「不動産」「相続・事業承継」のファイナンシャル・プランニングに必要な6科目を中心とした分野から、資産設計提案業務において必須とされる図表等の読み取り、各種計算、提案書の作成技術、係数表の活用、事例に沿った分析の技能といったさまざまな問題を幅広く出題するという構成としています。

<解説>

【サンプル問題1】

キャッシュフロー表は、現在の収支状況や今後のライフプランを基に、将来の収支状況や貯蓄残高を予想し、表形式にまとめたものであり、FPにとって、顧客のファイナンシャル・プランニングを進めるうえでの最重要ツールの一つです。

正解 1

1. が正しい。預貯金等残高は、前年の預貯金等残高に変動率を乗じたものに、その年の年間収支（収入 - 支出）を加えることで算出されます。

【サンプル問題2】

企業での不祥事の増加を背景に、年々、コンプライアンスの重要性は高まっています。コンプライアンスは「法令順守」を意味した言葉であり、FPも関連業法を順守し、コンプライアンスを常に意識した行動が必要不可欠です。

正解 3

1. 不適切。税務相談は税理士の独占業務であるため、たとえ無償であっても、税理士資格を有しないFPがこれを行うと法令違反となります。
2. 不適切。弁護士資格を有しないFPが法律判断を下すことは、法令違反となります。
3. 適切。社会保険労務士資格を有していなくとも、公的年金制度の概要について説明をすることができます。

【サンプル問題3】

資産の分散投資の重要性が高まる中、外貨建て商品の知識はFPにとって必須です。外貨預金の特徴を理解し、国内の商品との違いを説明できるようにしましょう。

正解 1

1. 適切。外貨預金とは、米ドル、ユーロ、豪ドルなどの外貨建てで行う預金のことをいいます。外貨預金の金利は、一般に、金融機関、通貨、預入期間などによって異なります。
2. 不適切。外貨預金は元本保証型の商品ではなく、為替相場の変動に伴う元本割れリスクが存在します。
3. 不適切。記述が逆です。金融取引において、顧客が円を外貨に換える場合に適用されるレートを「TTSレート」、顧客が外貨を円に換える場合に適用されるレートを「TTBレート」といいます。

【サンプル問題4】

FPが生命保険への加入・保障の見直し等の提案をするに当たっては、保険証券を読み取る力が必要です。保険証券の見方について理解しましょう。

正解 2

2. が正しい。被保険者が交通事故で死亡（即死）した場合、一時金として、終身保険から300万円、定期保険特約から1,700万円の合計2,000万円が支払われ、年金として生活保障特約から150万円×10回=1,500万円が支払われます。

【サンプル問題5】

所得控除は、大別すると、基礎控除や配偶者控除などの納税者本人の事情や家族状況などに応じて適用が受けられる人的控除と、社会保険料控除や生命保険料控除などの特定の支出により適用が受けられる物的控除に分けられます。控除を受ける基本的な適用要件や控除額などの所得控除全般について理解しましょう。

正解 2

2. が正しい。生命保険料については、その支払額が10万円を超えているため、一般の生命保険料控除は5万円となります。納税者自身が負担すべき社会保険料を支払った場合には、その全額が社会保険料控除の対象となります。基礎控除は一律38万円です。よって、所得控除の合計は、生命保険料控除5万円 + 社会保険料控除60万円 + 基礎控除38万円 = 103万円 と計算することができます。

<参考> 所得税に係る生命保険料控除の速算表

【年間の支払保険料の合計】	【控除額】
25,000円 以下	支払金額
25,000円 超 50,000円 以下	支払金額×1/2 + 12,500円
50,000円 超 100,000円 以下	支払金額×1/4 + 25,000円
100,000円 超	50,000円